

本 時 案 （ 第 2 次 2 / 3 ）

1 主 眼

- ・ 花びんの水を一定量ずつ増やしたときのかさと伴って変わる重さについて，変化の様子を表や折れ線グラフに表して調べ、変わり方を理解する。（水の量と重さ）

2 準 備

花びん、台秤(4 kg用)、バケツ、水汲み用コップ

3 学習の展開

学習活動・学習内容	教師のはたらきかけ（T1～T4まで共通）
<p>1 花びんや台秤などこれからの学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の設定 ・ 調べ方の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの心にこれからの学習の課題をしっかりとらえさせていくために、学習の準備を一緒にしていく。
<p>水をコップ1杯ずつ入れると、花びんの重さはどのように変わっていくだろう。</p>	
<p>2 花びんに水をコップ1杯ずつ入れて、花びんの重さを量り記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花びんの重さ ・ 表への整理 <p>3 水のかさと重さの関係について表からわかることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増えていること ・ 200gずつの差 <p>4 水のかさと重さの関係について折れ線グラフにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折れ線グラフの目盛りの取り方 ・ 座標点の取り方 ・ 線の結び方 <p>5 折れ線グラフからわかることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座標点の並び方 ・ 一定の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コップ1杯ずつ水を入れていくときに、次の花びんの重さを予想させていくことで変わり方を見つめ続けるようにする。 ・ 数値を前後で比較しながら、200gずつの差に気付かせる。 ・ 座標点を上手にとれるように、個別指導していく。 ・ 速くグラフに表した子には、前時に学習した水のかさと深さの関係のグラフと比較させていく。 ・ 座標点を結んだときに直線に見えることについての根拠を問いかけることで、一定量の増加に気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評〔考〕（花びんの水を一定量ずつ入れたときのかさと伴って変わる重さについて，変化の様子を表や折れ線グラフに表して変わり方をとらえる。） （発言・観察）</p> <p>配慮：一定量の増加に気付かない児童には、数値を分かりやすい理想的なものにしたり、定規を当ててグラフの傾きが変わりがないことに気付かせていく。</p> </div>